駿河湾沼津SAの価値創造に関する情報学的研究
～ ドッグラン施設のマナーアップ戦略を中心に ～

4 質の高い教育をみんなに
12 つくる責任 つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

★ キーワード： NEXCO中日本, 高速道路, ドッグラン, マナーアップ, 産学連携, みちまるくん

背景と解決課題

本研究は，中日本高速道路株式会社「NEXCO中日本」と共同で，駿河湾沼津サービスエリア内にあるドッグラン施設の現況調査とマナーアップキャンペーンを通して，同施設の付加価値の向上を目指しました．

新東名高速道路
NEOPASA駿河湾沼津（下り）
にあるドッグラン施設

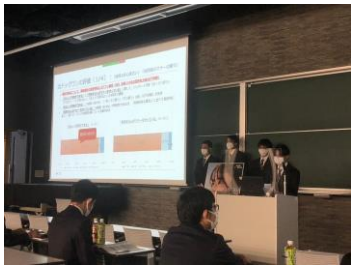
実施体制

駿河湾沼津サービスエリアを管理・運営する中日本エクシス株式会社の支援にくわえて，県内の企業やアドバイザーに協力を仰ぎました．対して，大学生は動画制作班，アンケート調査班，ペーパータオル制作班の3つのグループに分かれて活動を行い，PBLの実践に取り組みました（左図参照）．

実践の内容

2022年10月に駿河湾沼津SAにおいて，ドッグラン施設利用のマナーアップキャンペーンを実施し，来場客の皆さまに制作したオリジナルペーパータオルを配布しました．また，12月に最終報告会を実施し，プロジェクトに参加した学生たちがそれぞれ活動成果を発表しました．

マナーアップキャンペーンの風景
（駿河湾沼津サービスエリア）



最終報告会で活動成果を発表
（常葉大学 静岡草薙キャンパス）

NEXCO中日本オリジナルキャラクター　みちまるくん

考察と今後の課題

NEXCO中日本との課題解決型学習について，参加学生を対象にアンケート調査を実施した結果，約9割の学生が活動を通して学ぶことが多かったと回答し，高い教育的効果が示されました．またマナーアップキャンペーンでのペーパータオルの配布や，マナーアップ促進のショート動画がInstagram・ホームページ等で情報配信されたことから，同施設の付加価値の向上に寄与したことが示唆されました．

今後の課題として，継続した駿河湾沼津沼津SAのマナーアップ向上を促進するための活動が期待されます．

研究チーム Research team

山田 雅敏
常葉大学 経営学部
准教授／博士(情報学)
情報科学, 人工知能,
認知科学

小豆川 裕子
常葉大学 経営学部
教授／博士(学術)
ICT, テレワーク,
地域経営, 知識資産経営

yamada-m@sz.tokoha-u.ac.jp

・ 本研究は中日本高速道路株式会社共同研究費，常葉大学令和4年度地域交流・連携推進事業に係る研究助成の採択を受けたものです．
・ SDGs国際連合広報センターのロゴ使用に関するガイドラインに沿って教育目的により使用しています．